

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
関西医療学園専門学校	昭和32年5月13日	武田 秀孝	〒558-0011 大阪府大阪市住吉区苅田6-18-13 (電話) 06-6699-2222			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 関西医療学園	昭和55年5月 8日	武田 大輔	〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2-11-1 (電話) 072-453-8251			
目 的	学校教育法及び柔道整復師法に関する法律に基づき、柔道整復師に必要な専門的知識及び技術を教授し、資格の取得のみならず心豊かな人間性と確かな実践力を身につけた医療人を育成並びに社会に貢献できる人材を輩出することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	柔道整復学科	3年(夜)	113単位2425時間 (又は単位)	平成7年文部科学省告示第7号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	80単位1530時間 (又は単位)	11単位220時間 (又は単位)	0単位0時間 (又は単位)	1単位45時間 (又は単位)	21単位630時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180人	90人	12人	26人	38人		
学期制度	■前期：4月 1日～ 9月30日 ■後期：10月 1日～ 3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 試験を主とし総合的に評価し、100点満点中60点以上を合格とする。	
長期休み	■学年始め：4月 1日 ■夏 季：8月 1日～ 8月31日 ■冬 季：12月27日～ 1月 6日 ■春 季：3月25日～ 3月31日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	卒業条件は、出席を満たすと同時に、定期試験・卒業試験等すべての科目の試験の合格を条件とする。進級条件は、出席を満たすと同時に、進級試験を合格し、未修得単位が4単位以下を条件とする。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任・副担任との個別面談を行い、未改善の学生は保護者との面談を行う。			課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 整骨院・病院・診療所</p> <p>■就職率^{※1}100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 81.8%</p> <p>■その他（任意） (平成25年度卒業者に関する平成26年5月時点の情報)</p>	主な資格・検定	柔道整復師国家試験受験資格
中途退学の現状	<p>■中途退学者 9名 ■中退率 10.0%</p> <p>平成25年4月1日在学者 90名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 81名（平成26年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、経済事情など</p> <p>■中退防止のための取組 担任・副担任による定期的な個別面談</p>		
ホームページ	URL: http://www.kansai-iryo.ac.jp		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

柔道整復師に係る学校養成施設指定規則等の関係法令に基づき、教育内容や教員資格は厳格に定められている。

本校ではより専門的な知識と実践的な技術を教授できるように企業その他医療機関と連携し、教育課程を編成する上で意見を十分に活用し取り組むことを基本方針としている。これに伴い、定例で月1回、教員間で会議を開催し、授業内容や学生状況等について報告及び検討をしている。そこでは兼任教員からの意見を十分に取り入れ、カリキュラム編成、授業内容の改善及び学生指導等に活かしている。

特に教育課程の編成においては企業等と連携する教育課程編成委員会を設置し、教育内容の確認と効果を評価した上で、より実践的な教育課程の編成及び教育内容の充実を目的として、教育水準の維持向上を目指している。

本校の教育理念である「心豊かな人間性と確かな実践力を身につけた医療人を育成並びに社会に貢献できる人材を輩出すること」を達成するため、企業等と連携する教育課程編成委員会からの意見を十分に活用し改善に取り組むこととする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年10月4日現在

名前	所属
武田 秀 孝	関西医療学園専門学校
廣岡 聡	関西医療学園専門学校
武田 貴 司	関西医療学園専門学校
森岡 泰 之	関西医療学園専門学校
徳田 明 也	関西医療学園専門学校
山本 博 司	公益社団法人 全日本鍼灸学会
高岸 美 和	一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会
辻村 英一郎	辻村内科循環器科
川崎 勝 巳	川崎針灸院
上原 保 宣	上原整骨院
西畑 靖	にしはた整骨院
織田 明	株式会社 ワールド情報システム

(開催日時)

第1回 平成26年10月4日 14:00~15:00

第2回 平成26年11月1日 14:00~

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

関係法令に定められた授業内容において、医学知識、治療技術及び臨床実習等の医療人として必要な素養を修得した上で、企業等と連携して卒業後に即戦力として臨床の現場で活躍できる臨床家としての医療人を育成することが基本方針である。これに基づき兼任教員(企業との連携)の授業では、現場での知識・技術の習得が実習・演習に活かされている。その結果、卒業生においても整骨院、クリニック、病院等多数の就職に結びついている。

科目名	科目概要	連携企業等
柔道整復学実技Ⅱ	柔道整復学各論Ⅰ(頭部・顔面の損傷、上肢帯骨骨折、肩鎖関節・肩関節脱臼)の範囲で、発生頻度が高い損傷において基本的な整復法、固定法の知識と技術を習得する。また、鑑別診断に必要な触察方法についても修得する。	ほんまち通り整骨院
柔道整復学実技Ⅲ	柔道整復学各論Ⅱ(上腕の骨折、肘関節脱臼)の範囲で、発生頻度が高い損傷において基本的	かどわき整骨院

	な整復法、固定法の知識と技術を習得する。 また、鑑別診断に必要な触察方法についても修得する。	
柔道整復治療 実技Ⅰ	骨折、脱臼における手技療法、運動療法、指導管理の基礎の知識と技術を習得する。	翔鍼灸整骨院
柔道整復学実技Ⅳ	柔道整復学各論Ⅲ（前腕・手指の骨折と脱臼）の範囲で、発生頻度が高い損傷において基本的な整復法、固定法の知識と技術を習得する。 また、鑑別診断に必要な触察方法についても修得する。	槻整骨院
柔道整復学実技Ⅴ	柔道整復学各論Ⅴ（下腿・足部の骨折と脱臼）の範囲で、発生頻度が高い損傷において基本的な整復法、固定法の知識と技術を習得する。 また、鑑別診断に必要な触察方法についても習得する。	浦井整骨院

3. 教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）

教職員には更なるスキルアップを目指し、学科全体で業界団体が開催する企業等の研修会、勉強会等並びに学会に参加し専門的知識、技術の修得に努める。

毎年定期的に企業等の外部講師によるFD研修会を学内で開催し、学生に対するコーチング等について研修を行っている。また、各教員の役割（役職）に応じたFD（SD）研修会を開催し個々のスキルアップに活用している。

4. 学校関係者評価

（学校関係者評価委員会の全委員の名簿）

平成26年10月4日現在

名 前	所 属
武 田 秀 孝	関西医療学園専門学校
廣 岡 聡	関西医療学園専門学校
武 田 貴 司	関西医療学園専門学校
森 岡 泰 之	関西医療学園専門学校
徳 田 明 也	関西医療学園専門学校
一 谷 勇 一 郎	イチロー整骨院
吉 備 登	卒業生
久 内 克 仁	株式会社 久内鍼灸整骨院
大 石 雄 一	公益社団法人 奈良県柔道整復師会
橋 本 等	卒業生
織 田 明	株式会社 ワールド情報システム

（学校関係者評価結果の公表方法）

URL: <http://www.kansai-iryo.ac.jp>

5. 情報提供

（情報提供の方法）

URL: <http://www.kansai-iryo.ac.jp>

授業科目等の概要

（医療専門課程 柔道整復学科（夜））平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			健康科学	食物摂取を消化・吸収と代謝や発揮される機能面から学び、「生きる」とはどういうことかを考える。また、適正な摂取の必要性および栄養と疾患の関係性を学ぶ。	1・後	30	2	○		
○			情報科学Ⅰ	Word と Excel を基礎教材とし、基本的な能力を身につけ、応用できる能力の向上を目指す。	2・後	30	2	○		
○			情報科学Ⅱ	各種健康保険制度の成り立ちや仕組みを踏まえ、保険請求方法の基本的な実務ができる能力を養う。	3・後	30	2	○		
○			臨床心理学	目に見える行動と無意識とのこころのはたらきについて学び、臨床において患者に対し傾聴し、客観的にこころの働きを捉えられる能力を養う。	1・前	30	2	○		
○			経営学Ⅰ	経営に必要な実務を修得する。知識の暗記のみではなく、会計および簿記の学習も行い、「経営する」ことの理解を深める。	3・前	30	2	○		
○			経営学Ⅱ	経営学Ⅰの知識を基に税務申告書・事業計画書・資金繰り表の作成、開業時の準備等、経営者として必要な方法を身につける。	3・後	30	2	○		
○			英語	臨床の場において活用できるよう、具体的な事例を題材とし、専門的知識を深めるとともに英語力の向上を目指す。	2・前	30	2	○		
○			解剖学Ⅰ	医学を学ぶ上で基本かつ重要な人体構造について、知識の修得を目的とし、内臓、脈管、神経系を中心に、正常な形態を学ぶ。	1・通	120	6	○		
○			解剖学Ⅱ	医学を学ぶ上で基本かつ重要な人体構造について、知識の修得を目的とし、運動器系を中心に、正常な形態を学ぶ。	1・前	40	2	○		

（医療専門課程 柔道整復学科（夜））平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			生理学Ⅰ・Ⅱ	人体構造を機能面から学習する。正常な生命活動を営む個々の役割と系統的な仕組みについて理解できるようにする。	1・通	140	7	○		
○			運動学	運動器に関する力学的構造と各関節の動きを基本に、正常運動パターンから小児の運動発達まで臨床に欠かせない姿勢や動きを学習する。	2・前	40	2	○		
○			病理学概論	柔道整復師に必要な患者に対する発生要因と病態を把握できる能力を養うため、それに主眼を置いた病理学の知識を修得する。	2・通	60	3	○		
○			一般臨床医学（診察）	解剖学・生理学・病理学の知識を基に、健常と疾病との病態把握、症状や所見から判断できる観察力を養い、臨床の場で活用できることを目指す。	2・後	40	2	○		
○			一般臨床医学（内科）	日常遭遇する疾患に重点を置き、西洋医学の各疾患の知識を修得する。	2・前	40	2	○		
○			整形外科Ⅰ	全身の運動器疾患を扱う整形外科において、あらゆる画像を用いて診断の仕方を学ぶ。また、整形外科特有の病態についても知識を深める。	3・通	60	3	○		
○			整形外科Ⅱ	身体部位別の疾患を通じ、整形外科と柔道整復学との相互理解を深め、柔道整復術の向上を目指す。	3・通	60	3	○		
○			外科学概論	基本的知識および日常遭遇する可能性のある外科学疾患に注目し、理解を深める。また、医療人に必要な鑑別する力と救命処置の知識を習得する。	3・通	60	3	○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーション医療の概念を知る。評価法、理学療法アプローチを学ぶとともに臨床で活用できるよう、実践できる力も養う。	2・通	60	3	○		
○			衛生学・公衆衛生学	健康の概念と健康を害する環境について学び、衛生行政・医療制度から健康を実現しようとする社会のあり方を理解する。	2・通	60	3	○		

（医療専門課程 柔道整復学科（夜））平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			関係法規	柔道整復師法のみならず、あらゆる法律を学ぶことで、社会に貢献するために法律上何が必要なのかを考える力を養う。	1・後	40	2	○		
○			柔道（講義）	柔道の歴史や理念、また礼法、立ち技・寝技の技術、形、ルールなどについて視聴覚教材などを用いて学習し、柔道整復師の起源である柔道について理解を深める。	1・2・通	40	2	○		
○			柔道（実技）	礼法、技の基本から実戦まで3年間を通じ心身を鍛錬することで、技術の修得と柔道整復師の自覚を身につける。	全・通	180	6			○
○			柔道整復学総論	柔道整復術とは何か、骨損傷、脱臼、捻挫、軟部組織損傷の基礎的知識と評価および指導管理の知識を修得する。	1・前	40	2	○		
○			柔道整復学各論Ⅰ	頭部・顔面・胸部の損傷と鎖骨・肩甲骨骨折および肩関節脱臼について、発生機序から固定法までの理論を学習する。	1・後	40	2	○		
○			柔道整復学各論Ⅱ	脊椎の損傷と上腕骨骨折および肘関節脱臼について、発生機序から固定法までの理論を学習する。	1・後	40	2	○		
○			柔道整復学各論Ⅲ	前腕・手・手指部の骨折と脱臼について、発生機序から固定法までの理論を学習する。	2・通	40	2	○		
○			柔道整復学各論Ⅳ	骨盤・大腿骨幹部より近位の骨折と股関節脱臼について、発生機序から固定法までの理論を学習する。	2・後	20	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅴ	下腿・足部の骨折と脱臼について発生機序から固定法の理論を学習する。	2・通	20	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅵ	大腿遠位から膝部までの骨折、脱臼、軟部組織損傷について発生機序から固定法の理論を学習する。	3・前	20	1	○		

（医療専門課程 柔道整復学科（夜））平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			柔道整復学実技Ⅰ	硬性材料について学び、固定具の作製と実際に装着することで、患者の心理を体験し、固定具の重要性について理解を深める。	1・前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅱ	柔道整復学各論Ⅰで修得した知識を踏まえ、整復法、固定法の実習を行う。	1・後	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅲ	柔道整復学各論Ⅱで修得した知識を踏まえ、整復法、固定法の実習を行う。	1・後	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅳ	柔道整復学各論Ⅲで修得した知識を踏まえ、整復法、固定法の実習を行う。	2・通	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅴ	柔道整復学各論Ⅴで習得した知識を踏まえ、整復法、固定法の実習を行う。	2・通	60	2			○
○			包帯学実技	軟性固定材料である包帯や三角巾を用い、上肢、下肢、体幹など各部位や骨折、脱臼、軟部組織損傷など臨床目的に合った固定方法の技術を身につける。	2・通	60	2			○
○			柔道整復臨床論Ⅰ	下肢の軟部組織損傷の知識を用いて必要な検査を実施し、正しい鑑別と適切な処置や後療法の選択など、幅広く臨床に対応できる力を養う。	3・前	20	1		○	
○			柔道整復臨床論Ⅱ	上肢の骨折、脱臼の知識を用いて必要な検査を実施し、正しい鑑別と適切な処置や後療法の選択など、幅広く臨床に対応できる力を養う。	3・通	60	3		○	
○			柔道整復臨床論Ⅲ	脊椎・体幹部の損傷に必要な検査を実施し、正しい鑑別と適切な処置や後療法の選択など、幅広く臨床に対応できる力を養う。	3・前	20	1		○	
○			柔道整復臨床論Ⅳ	下肢の骨折、脱臼の知識を用いて必要な検査を実施し、正しい鑑別と適切な処置や後療法の選択など、幅広く臨床に対応できる力を養う。	3・前	20	1		○	

（医療専門課程 柔道整復学科（夜））平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			柔道整復治療学Ⅰ	物理療法に主眼を置き、特性や生理学的作用、適応と禁忌における知識を修得する。	1・前	60	3	○		
○			柔道整復治療学Ⅱ	骨折、脱臼について鑑別から整復、固定に至るまで複合的に対応できるよう、考える力を養う。	3・後	20	1	○		
○			柔道整復治療学Ⅲ	軟部組織損傷について検査方法、鑑別から処置に至るまで複合的に対応できるよう、考える力を養う。	3・後	20	1	○		
○			柔道整復治療学Ⅳ	救急医療の最低限の知識を学び、業務範囲内における外傷の応急処置と臨床現場での判断能力を養う。	3・前	20	1	○		
○			柔道整復治療実技Ⅰ	骨折、脱臼における手技療法、運動療法、指導管理の基礎を学習する。	1・通	60	2			○
○			柔道整復治療実技Ⅱ	発生頻度が高い上肢軟部組織損傷の発生メカニズムを学び、体表からの正しい観察と触察の仕方、検査法の適切な選択と実施、後療法について学習する。	2・通	60	2			○
○			柔道整復治療実技Ⅲ	テーピングの目的を学び、スポーツ現場において受傷直後からリコンディショニング期に至るまで状況に応じた処置ができる能力を養う。	2・後	30	1			○
○			柔道整復治療実技Ⅳ	骨折、脱臼における手技療法、運動療法、指導管理を実際の臨床で活用できる能力を養う。	2・前	30	1			○
○			柔道整復治療実技Ⅴ	日常的に遭遇する損傷に注目し、徒手療法の技術を身につけ、臨床における判断能力と適正に実践できる能力を養う。	3・後	30	1			○
○			臨床実技実習	患者への接し方、物理療法の扱い方を学び、修得した知識と技術も併せて臨床現場で実践できる能力を養う。	3・通	45	1			○

（医療専門課程 柔道整復学科（夜））平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			総合柔道整復学	柔道整復師に必要な知識をあらゆる方向から学習し、網羅する。	3・通	120	6	○		
○			総合柔道整復学演習Ⅰ	柔道整復学各論で修得した知識を基に、臨床における活用方法を学習する。	2・後	20	1		○	
○			総合柔道整復学演習Ⅱ	柔道整復学各論で修得した知識を基に、臨床での活用の仕方を思考し、それに対し考察と客観的評価を行う。	3・通	80	4		○	
合計					52科目	2425単位時間（113単位）				